



東京都
支部

大江戸通信

第 87 号 平成 29 年 1 月 1 日発行

東京都支部校友会／広報委員会編集部

連絡先：080-5032-1467

発行責任者：金子栄輔

本部校友会事務局：東京都千代田区九段南 4-8-28

Tel/Fax：03-3234-5858

編集責任者：高木典章



平成 29 年度・ 関東ブロック 総会は東京都 支部の開催に 決まる!!

もくじ

- 関東ブロック総会東京都支部に決まる……1
- リレー随想………2
- 校友大会・忘年会のスケッチ………3
- 平成 28 年度関東ブロック総会 in 茨城県大会開催………5
- 明けましておめでとうございます……6～7
- 新年会のお知らせ
- 東京都支部だより………8

新年明けましておめでとうございます。

新しい年が始まった。不思議なもので、歳をとってきても新年を迎えると、気持ちが引き締まり、これからまた一步踏み出そうという気持ちになる。

平成29年度の関東ブロック総会の主催支部は東京都支部に決まった。関東ブロック総会の開催は昭和55年に第1回が通信教育部校舎で開催、その後東京都支部の主催は昭和62年(青梅市岩倉温泉・河むら館)、平成5年(日本大学本部・会館および隅田川遊覧)、12年(青山メトロ会館)、18年(上野池之端・ホテル鷗外荘)、24年(山梨県石和温泉・ホテル石風)と、これまで6回開催し、平成29年度で7回目を迎えることになる。

東京都支部は、日本大学通信教育部の校友会組織として、有志が中心となり昭和42年東京桜友会として発足しているの、本年は東京都支部発足50周年を迎える年となる。そこで、昨年未開催された東京都支部の忘年支部会では関東ブロック総会及び東京都支部50周年記念事業について以下のことが確認された。

● 関東ブロック総会

1. 開催時期：平成29年9月～11月の間に開催する。
2. 開催場所：東京都内もしくは近郊の温泉地として下記の案が検討された。
 - ①総会を市ヶ谷近辺のホテル、観光は両国近辺の歴史散歩
 - ②東京都下の青梅・五日市方面の温泉宿
 - ③支部空白県(山梨・群馬・神奈川県)の観光温泉地
3. 開催方法：東京都支部50周年記念事業と合わせた総会にする。
4. 実行委員：委員長・金子栄輔支部長、委員・支部役員及び東京都支部全員

● 東京都支部50周年記念事業

委員長・石川寿朗相談役

委員・東京都支部支部員より協力者を募り、事業を行う。

● ぜひ支部のみんなで作り上げる事業にしたいと思っています。上記の両事業にご協力できる支部員を求めています。ご協力いただける方は支部長宛ご連絡ください(090-5032-1467)。

今から50年前の昭和40年当時の大学進学率は男性が15%程度、女性は3%程度だったが、現在では男性の56.4%、女性の45.2%が大学に進学しており、高学歴化が進んでいる。改めて50年間の重みを感じられる。



昭和 48 年 文理学部卒
富山県在住

樋口 治美

私が日本大学通信教育部へ入学したのは昭和 43 年、ちょうど大学は学園紛争の最中で、スクーリングは大学の校舎が使えず、日大豊山高校で行われた。勤めを終えて急いで登校したら空席はわずか、優しい女性の方が傍へ行き「ここ、空いていますか」と聞いたら「どうぞ、どうぞ」と暖かく迎え入れてくれた。それが壁谷さんとの最初の出会いだった。次の日からその女性めがけて席をとった。人との出会いは運命のようなものだ。壁谷さんは日大通信教育部の事務局に勤めていたので、当時の猿渡課長に勧められて通信教育部校友会に参加した。あと二ヶ月で卒業するところだった。

当時、国語学は駒沢大学から木村先生が来ていらっしゃり、卒業してから仕事を手伝ってほしいと言われていた。今昔物語の文章を品詞別に仕分けをするのである。最初先生のお宅へ伺った時、七・八人はいたと思うけど、だんだん人が減り、とうとう壁谷さんと私の二人だけになってしまった。来る日も来る日も原稿用紙に文章を書き、それを品詞別に仕分けしていくのである。面白い仕事ではなかったが、先生の恩師の研究に役立つのだと聞いて「私の力が何かのお役にたつのなら」と一生懸命続けた。今ならコンピュータですぐにできることなのである。三年間続けた。

あるとき、千代田区主催の講座に二人で出席した。慶応大学の高橋先生が講義をやってくださって古文書の勉強だった。むつかしいけど面白いから私は楽しみで出席した。いつも壁谷さんと並んで座っていた。ある時、先生が教壇からツカツカと降りてきて私達の前に立ち「あなた方は親子ですか」と言われた。私と壁谷さんのことである。私は壁谷さんに悪くて「いいえ！」と強く首を振った。壁谷さんが後で「先生何をおっしゃった

の？」と言ったので、「親子かって」と言ったら「それじゃ私は小学生の時あなたを産まなければならないわ」と屈託なく笑っていた。壁谷さんが何くれとなく私の世話を焼き、私の方はそれが当たり前のように受け取っていたからそう見えたのかもしれない。

木村先生の方へは頼まれた仕事が終わってからよくお宅へ伺った。いつか師と弟子というより親戚みたいになっていた。あるとき、先生が「私の兄が奥さんを亡くしているのだけれど誰かいい人いませんか」と言われた。私は「私の周りでは壁谷さんしかいません」と言ったら、「壁谷さんに話してみてくれないか」と言われた。最初から壁谷さんが目当てだったんだろうと思う。お盆にお兄さんと呼ぶから私たちに先生のお宅へ来て欲しいとのこと、壁谷さんに話したら「私は二度と結婚はしません」と固く断られてしまった。それでもお盆に先生のお宅へお伺いすることになった。先生のお宅にはお兄さんと大学生の息子さんの二人が待っていた。「感じのいい息子さんね」といったら「息子さんのお嫁さんになるんじゃないのよ」と壁谷さんから睨まれた。

日大通教部へ入ってどんな勉強をしたのか、はっきり一つ一つ口に出すことはできない。私は国文専攻だけど、論理学が面白いと言ってたと、壁谷さんは今でも不思議な人という目で私を見るのだ。今まで知らなかった学問がそうやって身に近づいてきたと思う。それを楽しみながら、校友会の方々の親切に甘えて日々を過ごしていたのだと思う。だから思い出となると、どれも心地よいものばかり、人に恵まれていたのだと思う。これからの人生は残り少ないけれど、このままいけば気持ち良い一生を送れるだろう。これもみんな今までの私の周りにいてくれた人々のおかげなのだ。

平成 28 年度 日本大学校友大会開催

毎年盛大に催されている全国校友大会が、昨年 11 月 4 日東京ドームホテルで開催された。この大会は、全国の校友と日本大学の役員・教職員が年に一度、一同に会し交流することで“絆”を深め、日本大学のさらなる発展に寄与することを目的として開催されるもので、通信教育部でも白戸会長を始め多くの校友が参加した。リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック校友メダリスト 5 名も参加し、大会は大いに盛り上がった。



昨年 5 月の総会でご講演頂いた早田先生から選手が紹介された。
左からケンブリッジ飛鳥選手、柔道の原沢久喜選手、水泳の小堀勇氣選手、シンクロの三井梨沙子選手、パラリンピック水泳の木村敬一選手



田中理事長より各選手に報奨金が授与された。
写真はケンブリッジ飛鳥選手

平成 28 年度 東京都支部忘年会開催

平成 28 年の忘年会が昨年 12 月 1 日、市ヶ谷の「テング酒場」で開催された。参加者全員で近況報告の後、関東ブロック会開催についてみんなで構想を練った。みなさん一年間お世話になりました。



鈴木さん・内藤さん・橋本さん・田口さん
後方は箱根駅伝の応援ポスターが見える。



安部秀人さんと米寿を迎えますます元気な松川さん



「昔話だけじゃなくてこれから語りましょうヨ」内田多真喜さん



「設立時の校友会は……」熱い想いを語る石川顧問(右)と鈴木幹事長(左)

「そうだったよな」と、左は富沢副支部長

